

令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

みんなで創ろう!「こどもまんなか」研修

令和8年度 実践研究園公開保育【往還型研修全3回シリーズの第1回】

第5回開催 令和8年7月1日(水)

実践研究園

『社会福祉法人 宇治福祉園』

幼保連携型認定こども園 みんなのき 三室戸こども園』

研究テーマ

『インクルーシブ保育の探求とみんなのきの保育実践』

参加者内訳: 保育所(園)6名・幼稚園6名・認定こども園12名・小学校1名



※ この研修通信は、研修での学びを広く共有するために、研修後の参加者の振り返りシートをもとに作成・発行しています。

園(校)内研修や日々の振り返りにご活用ください。

次回の研修へのご参加もお待ちしております。

ご質問等がございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp





公開保育での気づき



参加者が最も心に残った子どもの姿や保育者の関わり

- 子どもたちが自分で「今日やりたいこと」を決め、思い思いに遊びを展開する姿が印象的だった。
- 保育者が必要以上に声をかけずとも、子どもたちは素材や環境と対話しながら遊びを深めていた。
- 「水、新聞紙、ハサミなど身近な素材や道具を自由に使い、保育者も一緒に楽しむ姿が見られた。
- 環境が子どもの発想を引き出し、主体的な活動を支援していた。



実践のポイント

- 子どもが自ら選び、考え、試すことができる環境を整えてみる。
- 保育者は「見守る」「待つ」姿勢を大切にする。
- 素材や空間を通して、子どもの探究心を支える。



園校で実践してみよう

- 遊びの種(クリエイティブ・リソース)や自然素材を活用し、自由に使える環境を整えてみる。
- 保育者も子どもと一緒に遊び、共に楽しむ姿勢をもつ。



解説からの学び

講師



- ◆ 社会福祉法人 宇治福祉園 理事長
- ◆ みんなのき三室戸こども園 園長

杉本 一久 先生



参加者の心に最も残ったこと

- 「おもちゃはこう使うもの」という固定観念を見直し、モノが子どもに語りかけるという視点に気づいた。
- 環境は子どもを包み込み、遊びを継続させる力を持つ。
- 保育者が先回りせず、子どもの発見や発酵の時間を待つことの大切さを学んだ。



実践のポイント

- モノ・ヒト・コトの関係性を意識し、環境を構成する。
- 子どもの遊びを途切れさせず、継続できる仕組みをつくる。
- 「できた・できない」ではなく、感じ取る過程を大切にする。



園校で実践してみよう

- 保育室や教室の環境を見直し、子どもが自由に発想できる空間を整える。
- 子どもの姿に「感応(=感受×応答)」し、「共創」することを大切にする教育・保育への転換
- モノの配置や素材の選び方を工夫し、子どもの探究を促す。



グループワークでの気づき



参加者の心に最も残ったこと

- ・ 散らかっていると感じるのは大人の固定観念。その状態を**次まで残しておく**ことで遊びに「厚み」が出て、子どもの思考を広げるきっかけになる。
- ・ 子どもが心地良い場所を自分で選択できるため、集団の中で「発達の凸凹や目立つ子」が分かりにくく、トラブルが起きにくい。
- ・ 小学校の先生方も主体性を大事にしたいと葛藤しておられる。**普段からの交流**が段差を埋めていく。



実践のポイント

- ・ 「散らかっている→**豊かな学び**」と捉える視点をもつ。
- ・ 子ども自らが**選べる**環境
- ・ 園と学校の接続をなだらかにし、子どもの**主体性を継続して支える**。



園校で実践してみよう

- ・ 遊びや活動の跡を残し、次の日につながる環境をつくる。
- ・ 園校内で子どもにとって「心地よい場所」つくる。
- ・ 園と学校の交流を定期的に行い、実践を共有する。

明日からの実践への還元

参加者が「まずはこれをやってみよう」と思ったこと



就学前施設

実践のテーマ	具体的な取組
対話の充実	サークルタイムを使い「何をして遊びたいか」「どうしたいか」を 子どもたちと一緒に話し合って進める 。
環境と素材の見直し	使い方を指定しておもちゃを提供するのではなく、空き箱や空き容器など 遊びの種(クリエイティブ・リソース) を集めて子どものアイデアを喚起する。
急がない見取り	活動の成果や美しさを求めず、 子どもが何に心を動かされているのかを丁寧に見取り 、保育者の一言、沈黙、位置取りを意識する。

小学校

実践のテーマ	具体的な取組
環境と素材の工夫	生活科や図工でトイレットペーパーの芯などの 素材を多く用意 し、児童が 自ら選択 して生き生きとものづくりができる環境を作る。
ともに楽しむ授業展開	大人が「させる」のではなく 児童の願いを問いかけ 、「 楽しんでいる中に学びがある 」ような授業を一緒に作り上げていく。



実践研究園としての気づき

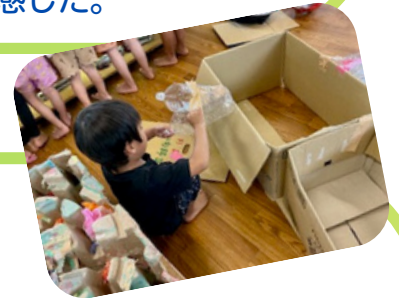
子どもの変化

- ✧ 自分も充分に表現し、周りの人も認める力
- ✧ 子ども自身が自ら興味関心を広げる姿が増えてきている。
- ✧ 自分で面白さを見出す力。不思議と思ったことに向き合う力。
- ✧ 子どもたちは自分で気づきを見つけていくことができるようになる。
- ✧ 一人一人が自分を表現しやすくなっていることを感じる。
- ✧ 子どもが環境の中にあるモノ・ヒト・コトと関わりながら、自分なりの感じ方や試し方を深めている姿が、より豊かに見えるようになってきた。子どもは、こちらが用意した活動の目的に向かうだけではなく、葉っぱ、泥、水、光、容器、筆などに触れながら、そこから自分の問いや表現を立ち上げている。子どもは人だけでなく、環境そのものと共に育っているのだと感じた。



保育者自身の変化

- ✧ 子どもの表現と共に自分も表現するということ
- ✧ ワクワクする楽しみや期待感が大きくなった。
- ✧ 子どもの主体性と保育者の主体性の両立と混ざり合い。
- ✧ 子どもの姿をよく見ようと、知ろうとする姿勢が増えました。
- ✧ 学びたい気持ちが強くなっていると子どもたちと、もっと触れたい、近づきたい、感じたいという気持ちが益々強く大きくなっています。
- ✧ 保育を「何をしたか」「何ができたか」で見るのではなく、その姿がどのような由来・来歴・姿跡から生まれているのかを考えるようになった。



他園(校)との協議の意義

実践研究園として保育を開き、自園以外の方々と一緒に研修して「よかった」と感じられたこと

- ✧ 大切にしていることを伝えられた。共感してくださった。
- ✧ 気づきや質問を受けることで、より自身を振り返るきっかけをいただけた。
- ✧ 自分たちの保育がどう見えるのか、率直な意見を聞くことができたこと
- ✧ 他園の様子を知れたり、知ってもらえたりしたこと。
- ✧ 園として大切にしていることについて、気づいていただけたり、共感していただけたりした時に、本当に嬉しく感じた。一方で、課題にも気づかせていただけたことがあった点
- ✧ 実践研究園として保育を開き、小学校・幼保こ・療育施設の先生方と共に問い合えたことは、大きな意義があった。特に小学校の先生から、「答えを教えるための学校教育とは逆に、子どもの姿から環境構成や教育の意味そのものを問われていることに感動した」という感想をいただいた。この言葉から、公開保育は自園の実践を見てもらうだけではなく、教育とは何か、学びとはどこから始まるのかを、施設の垣根を越えて問い直す場になるのだと感じた。





まとめ

今回の研修では、大人が「何をしたか・できたか」という目先の結果や美しさに囚われ、急いで意味づけをしようとする、子どもの自由な発想や探究の芽は閉じてしまうことがあるということに気が合いました。

逆に、実践研究園の公開保育での子どもたちの姿を通して、大人が先回りを手放し、良い意味での「散らかり」や「遊びの足跡」を保障したとき、子どもたちは**発達**の凸凹さえも**包み込むほどの深い没頭と、お互いを認め合う共感性を生み出す力が育つ**ことを確かめ合うことができました。

また、実践研究園での「今」を大切に、**子どもの主体性を引き出す環境**は、小学校の先生方にとっても**カリキュラムのあり方や授業展開を問い直す**大きな刺激となり、保幼小のなだらかな接続への確かな一歩となったのではないかと感じました。



明日へのヒント



やってみよう!

「明日からの実践で、わたしたちは何を大切にしますか？」

この研修に参加された方も、参加されなかった方も、ぜひ以下のことを心に留めてみてください!

① 子どもに問う

- ・「今日は何をしたい？」
- ・「次はどうしたいのかな？」
- ・「何か必要なものはある？」

子どもの声を聞くことから、全ては始まります。

② 環境を整える

- ・遊びの種(クリエイティブ・リソース)や素材を豊富に用意する。
- ・子どもが自由に選べる状態を作る。
- ・「良い意味で散らかっている」を許容する。

子どもの主体性は、環境によって育ちます。

③ 「見守る」ことも大切

- ・必要以上に声をかけない。
- ・子どもの試行錯誤を邪魔しない。
- ・子どもの姿を丁寧に見取る。

子どもの主体性を信じることは、保育者の大切な役割です。

④ プロセスを大切にする

- ・「できた・できない」で測らない
- ・「きれいに片付いている」ことより、遊びの足跡を残す。
- ・子どもが何に心を動かされているかを問い続ける

成果よりも、その過程に、子どもの成長があります。

⑤ 職員同士で語り合う

- ・朝礼や放課後に、子どもの姿を共有する。
- ・「この子は何を感じているのか」を一緒に考える。
- ・保幼小で、「子どもにとって何が大切か」を問い直す。

職員同士の対話が、子どもの学びを豊かにします。

